

会 議 録

会議の名称		第3回守谷市総合計画審議会		
開催日時		令和3年12月24日（金） 開会：13時30分　閉会：15時45分		
開催場所		守谷市役所議会棟 中会議室		
事務局（担当課）		市長公室 企画課		
出席者	委員	腰塚会長、小川委員、新田（友）委員、石澤委員、鳴澤委員、鈴木委員、松元委員、松本委員、佐藤委員、河合委員 (10名出席)		
	その他			
	市職員	松丸市長，浜田市長公室長，浅野次長兼企画課長，坂本課長補佐，南崎係長，北川主任，坂主任		
公開・非公開の状況		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	6人
公開不可の場合はその理由				
会議次第		1. 開 会 2. 会長あいさつ 3. 市長あいさつ 4. 協議事項 (1) 第三次守谷市総合計画（案）について 5. その他 (1) 今後のスケジュール等について 6. 閉 会		

確定年月日	会議録署名
令和4年2月25日	会 長 腰 塚 武 志

審 議 経 過

1. 開 会

- ・事務局：ただいまから第3回守谷市総合計画審議会を開会いたします。

2. 会長あいさつ

- ・腰塚会長：皆様こんにちは。4月以来ずいぶん時間が経ちました。今日は、ご欠席の方が多いいいことですが、考えてみると4月には、コロナがこんなになるとは、予想ができないですし、なかなか、将来のことや何か景気のいいことは考えられない。そんな雰囲気蔓延しておりますけど、それと別にやはり長い将来のことですので、皆様ご自分のお住みになっているところをどうするかということ、今日もご審議いただきたいと思います。よろしくお願ひします。

3 市長あいさつ

- ・松丸市長：皆様こんにちは。本当にお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。直近で言えば、12月8日に住民基本台帳上の人口が7万人を達成しました。実はその後下がったのですが、7万人に初めて達成したことは、これまで守谷の住みよさを支えていただいた市民の皆様のおかげと感謝申し上げます。今日は、第三次守谷市総合計画の案をご議論いただくわけですが、これからの新しい10年をどういう方向でいくかということですので、皆様のお知恵を拝借しながら、新たな守谷の歩みを進めたいと思っております。また来年は、(市制施行)20周年の節目の年に当たります。新たな出発点にしていきたいと思っておりますので、今後とも皆様のご協力、ご支援をお願いします。今日はよろしくお願ひします。
- ・事務局：市長は公務の都合により、ここで退席させていただきます。
- ・事務局：協議事項に入る前に、会議録の発言者名の記載についてお伝えいたします。前回第2回審議会におきまして、「守谷市総合計画審議会の会議録を作成・公表するにあたっては、発言者名を記載する。次回以降も同様とする。」との合意をいただきましたので、ご報告いたします。今後の議事進行は、守谷市総合計画審議会条例第5条第3項の規定により、腰塚会長にお願いいたします。会長よろしくお願ひいたします。

4. 協議事項

(1) 第三次守谷市総合計画(案)について

- ・腰塚会長：答申は、次の機会ということ。それでは、事前にお配りした第三次守谷市総合計画の目次を見ていただいて、基本構想を最初に、次に人口ビジョンと総合戦略と一緒に、基本計画を3番目に、それぞれ区切って、質問とご意見をいただきたい。今日は答申ではないので、ざっくばらんにご意見をいただければと思います。まず、基本構想から、ご説明願ひします。

①基本構想について

【 第三次守谷市総合計画体系（投影）・「当日資料 No.1」により、事務局説明 】

- ・腰塚会長：全般として、枠組みが示されたと思います。ご意見等ありましたらどうぞ。
- ・事務局：その前に、守谷市議会総合計画検討特別委員会の提案についてお配りし、個別の部分について、参考としていただければと思います。

【 当日配付「第三次守谷市総合計画（案）に対する提案について」の
「基本構想」関係 について、事務局説明 】

- ・小川委員：2 ページ冒頭に「都心に近く」。自分の立ち位置をどっちに置いているかによって変わってくるので、その整合性だけを図って欲しい。
- ・腰塚会長：外から移ってくる人のことを考えれば「都心から」、中に住んでいる人から見たら「都心へ」です。
- ・小川委員：至るところに、守谷は自然が豊か、恵まれていると書いてある。まさにその通りだけれども、水と緑があんまり豊かなために、意外にぞんざいに扱っている。小学校や公園の木を、無残に切ってしまう。水と緑を標榜するなら、一本一本の木を大事にしてほしい。守谷の風格を損なうので、しっかりと行政が対応して欲しい。
- ・河合委員：7 ページの図で、上は「守谷は、わたしの」と一人称で、下は「守谷は、わたしにとって住みたいまち」となっているが、「守谷は私たちにとって住みよいまち」とするのはどうか。10 ページの総合戦略の重点プロジェクトで、上から四つ目、「誰もが安全に安心して働ける環境」になっている。なぜここで「働く」が出てくるのか。「暮らす」の方が大事と考えると、「誰もが安全に安心して生きがいを持って暮らせる環境をつくる」という言葉はどうか。
- ・腰塚会長：次の総合戦略で外から来た人を増やそうという意識があると、こういう書き方になるんだろうと思います。そういうご意見があったことは、事務局は認識しておいてください。それでは、次の人口ビジョンと総合戦略をご説明願います。

②人口ビジョン・総合戦略について

【 「当日資料 No.2」により、事務局説明 】

【 当日配付「第三次守谷市総合計画（案）に対する提案について」の
「人口ビジョン」（将来人口推計）関係 について、事務局説明 】

- ・小川委員：32 ページの「市内で従業する就業者数」。現状値が空欄なのは、令和 2 年度数値の公表が令和 4 年 7 月だからだろうが、その前の数値はないですか。
- ・事務局：平成 27 年の国勢調査で、2 万 2,000 人程度だと思います。
- ・小川委員：30 ページの中段、「質の高い教育環境の整備」の「英検 3 級以上を取得した中学 3 年生の割合」はこれでいいが、「国語教育の充実」というものは入らないのか。日本人だからそこをしっかりとやらないと、国際人にはなり得ないと私は思う。

- ・事務局：守谷で今推し進めているのが、英会話の話があったので今回掲載したが、国語、日本語の軽視ということではない。担当課にも状況を確認して、戦略の仕組みづくりをしたい。
- ・小川委員：「国際的に活躍できる人材を育成したい」と言っている。国際的に活躍できる、我々が何人かということは、国語もしっかり充実させる必要がある。入れられるなら、ご検討いただきたい。
- ・腰塚会長：確かに数値目標にすると、その数値は限られるだろうと思うけど、もう少し工夫が必要である。そのページの、「地域資源の入込客数」は何ですか。
- ・事務局：守谷駅前等の定期的なイベントや「守谷野鳥のみち」の来場者数のカウントです。
- ・河合委員：総合戦略は基本計画の中に包含されるという説明があった。総合戦略だけを説明いただくと、守谷市外の方に対しての守谷市のPRと読めるので、基本計画の中に包含されるのであれば、まず基本計画の説明があって、その中で総合戦略があるというものと、もう一つは、先ほど守谷市の生産年齢人口を伸ばすという話があったが、その生産年齢人口を伸ばすことを守谷市の目標にしないといけない理由がわからないです。守谷市に生産年齢人口を移動させるのは、日本の人口を伸ばすことにはならないので、なぜ守谷市の生産年齢人口を伸ばさないといけないか、それを大きな目標としないといけないのか、わかるような説明があったらいいと思います。
- ・腰塚会長：要するに高齢者が多いのであって、そこで活動が行われていると言いたいんですかね。だから、生産年齢人口が出てくる。
- ・河合委員：生産年齢人口が増えると、今守谷に住んでいる人たちが幸せになるというものがあるのか。いや、守谷はそもそも魅力的なまちだから、国の施策の一環として、守谷市にもっと生産年齢人口の人たちに住んでもらおうという意味合いがあるのか。どっちに位置付けているのか。
- ・腰塚会長：やっぱり、就業者を増やそうとしているのか。守谷は、数少ない人口が増えているところですけど、実際は二重構造で、増えている部分と老年人口が増えている部分も持っていて、一緒に数にすると増えちゃったというのは皆さんご存知だと思うので、その辺をどう考えるかということですかね。
- ・佐藤委員：守谷駅周辺の学区、学校の児童数は今増加していますが、一方で駅前から離れた地域の学校の児童数は、年々減少を強める傾向にあるようです。この一因は、平成28年12月の東京駅直通高速バスの廃止、新型コロナウイルスの影響によるバスの減便、そして今月20日からバス減便の影響も出てくるのではないかと考えております。
最終便が10時で終わる現状もあり、TXで帰ってきても家に帰れない地域の人達が出てくる現状となっており、交通インフラは、居住地を決める上で大変大きな判断材料となっています。結果、豊かな土地があるにもかかわらず、守谷駅周辺のみ人口増加傾向が強まり、地域差が強く出続けてしまうと、手ごろな価格で都心にも出やすい一軒家を購入できるという、子育て世帯にとっては大きな守谷の魅力が損なわれてしまうと心配しています。それは、守谷で育った子供たち

の流出にも流れていくと見たら、今後、高齢化にも繋がっていくと感じております。

守谷市としても、通学や通勤で毎日市外に出る人たちの、駅前以外からの交通インフラについて考えていただけたらありがたいと思っています。

・ 松本委員：将来人口推計の出し方を、常任人口ということは聞いたんですが、7万人になるのは、令和8年となっています。もう少し増えるんじゃないかと思うんですが、その辺の修正はできないんでしょうか。

・ 事務局：昨年度の国勢調査の数字では、6万8,421人が常住人口です。現在発表している常住人口は、前の国勢調査に住基人口（の増減）を足している形で、新しい常住人口では約360人減ります。現在の常住人口公表値と住基台帳公表値は、約600人の差があるので、そこで1,000人弱の差が出ており、常住人口で6万9千数百人が現在の状況です。

今後伸びる要素で、松並青葉の残り千人分の750人が想定できる。ただ、その後については、合計特殊出生率についてなかなか上がってこない状況なので、すぐにそれが来る形にはならない。今後読める分として挙げたものがこの数値だったので、令和8年に7万人に到達するという推計を出している現状です。

・ 松本委員：それにしても、守谷の場合、人口の増加率は、多いんじゃないですか。

・ 事務局：今後について、守谷市の市街地のキャパシティを考えた外、新しい開発がない限りは、急激に伸びる要素がないという現状です。

・ 松本委員：新守谷（駅周辺）も何か開発されるということで、マンション的なまちづくりなら、人口が増えると思うんです。その辺を加味して、人口が増える可能性があると思います。

・ 事務局：基本的に、産業施設が来る形です。住宅地的な部分は200人程度です。

・ 腰塚会長：将来人口を何人にするかというのは、本当はここにいる誰にもわからないんです。地道に積み上げてこのぐらいとするのも一つ、やっぱりちょっと多めにして元気を出そうというのも一つの案です。ただ、これまで守谷が増えてきたような大規模な開発はないから、増え方が勘定できない、確かな数字としては、ということだと思っんです。

ただ、市街地面積を見る限り、この推計値がちょっと狂っても何かに狂いが生じるとは思わないです。それは確かだと思います。ですから、一応7万人をめどに、これから後、今のままやってもピークはまだ先にありますという推計だと。やっぱり出生率が鍵ですというのが、今日の話だったと思います。

さっきお話があったように、データを見ても子ども連れで移ってくる方が多いのは一つの着目点で、それと、都心までの距離と、この距離としては安く購入できるというところはあると思います。そういうのが持続するのが、大事だろうと思います。

・ 松本委員：28ページ、「出産・子育ての希望をかなえる」となっていますが、千葉県流山市は、非常に若い人たちの入居が多いと聞いています。子どもを育てることを真剣に行政が担っているから若い人たちにニーズがあると思います。守谷も教育につ

いては非常に、先端に行く教育をやっているということも、もう少しアピールすることも必要と思います。その辺いかがでしょうか。

- ・事務局：教育は、人を呼び込む、また若い子育て世帯を呼び込む施策の一つでありますし、重要な位置付けをしています。総合計画、重点施策に位置付けをしつつ、今、シティプロモーションを20周年に向けていろんな形でPRを進めています。引き続き、さらに進めていきたいと考えております。
- ・松本委員：教育について、「質の高い教育環境づくり」となっていますが、これは小中学生を対象にしている、高校についてはほとんど触れていないと思うんです。守谷高校に入学している方、地元から25%ぐらいしか行ってないです。あとは、柏、土浦、つくばに行ってしまう。そこで、守谷高校についてもっと認識を高めるために、中高一貫校という考えはないでしょうか。守谷にもそういった環境があればいいと思っていますが、どうでしょうか。
- ・事務局：守谷市は、制度的に一貫校とはなっていませんが、市の教育プログラムとして、保幼小中高一貫教育プログラム「きらめきプロジェクト」を教育委員会で展開しています。守谷高校の部活動、例えば剣道部が中学校に教えに来たり、保育所・幼稚園から高校まで連携した教育プログラムを組んで、実践しております。そこは、今後も進めていくと思っています。
- ・腰塚会長：小中学校をきちんとやるのはすごく大事で、本当にいい先生にいかにか守谷の小中学校でやってもらうかに尽きると思う。さっき出ていたけど、シニアの方で人材がいるから、ぜひ、利用した教育を考えていただくといいのではないかと。
- ・佐藤委員：家庭科の補助や苦手な教科がある子どもの指導など、学校に入っていただくボランティアさんが、コロナ禍になってから、一切なくなったと思います。今後、また学校に入っていただくような計画があるのでしょうか。
- ・事務局：新しいオミクロン株云々の話もあり、そういった状況によると思います。

①基本計画について

- ・腰塚会長：基本計画について説明していただきます。

【「当日資料 No.4」により、事務局説明】

- ・小川委員：44 ページ、(4.人権の尊重と多文化共生の実現の) 市民の役割で、「守谷市国際交流協会等の活動団体は云々」で、「外国人の支援についても検討し、取り組みます。」は、一義的に行政が取り組む話であると思うので、ご検討願いたい。70 ページ (の 14.地場産業の発展) で、商工業についてはほとんど触れられてないに等しいと思う。国も平成 26 年に小規模企業振興基本法を作り、県でも来年 3 月に議員提出で条例を作ります。そういうものに取り残されないよう、小規模企業の基本条例も検討いただきたい。ここに入れ込むように検討いただきたい。
- ・河合委員：42 ページ「13.生涯学習の推進」の市民の役割に「芸術・文化の鑑賞や活動に積極的に参加します。」とある。行政の役割では、「PFI/PPP による音楽ホールの創設の検討」として、検討をお願いします。45 ページ「5.高齢者福祉の充実」、相続税の申告を扱う中で、半分以上が施設で亡くなっていますが、できるだけ家

で死にたいのが高齢者の希望です。守谷に無いのは、訪問医療のシステム化と、給食サービスのシステム化です。それをぜひお願いしたい

- ・鈴木委員：51 ページ、「8.活気ある地域活動の推進」の成果指標、現状値が47.4%で、目標が60%と高い。よほど施策を細かにしないと大変だ。55 ページ（「10.環境にやさしい生活の創出」で）、常総環境センターのごみ搬入量がピークに達している。それを具体的にどう進めるのか。かなり真剣にやらないと、どうしようもないのではないかと。
- ・事務局：常総広域のごみ関係は一部事務組合で運営し、その管理者が松丸市長です。市長からも、環境センター、広域組合含め、うちの環境担当職員もきつく言われています。その現状を構成市、市民にしっかり周知しないといけない。分別もしっかりしてないところは受けないぞ、というぐらい強く進めないと、本当にパンクしてしまう。そこは、今まさに、やっているところです。
- ・鈴木委員：トップだけが声をかけてもどうにもならない。住民が危機意識を持って、具体的にどう取り組んでいくかが求められていかないと、ごみの問題は解決しないと思います。
- ・新田（友）委員：「6.地域福祉の推進」で、守谷市でも今問題になっているのが「8050 問題」。高齢の親御さんが、障害を持っているお子さんを見ていて、この問題も大分出てきています。

5. その他

（1）今後のスケジュール等について

- ・腰塚会長：大分時間が過ぎましたので、今後のスケジュールを事務局から言ってください。
- ・事務局：今後は、今日皆様からいただいたご意見、また来年1月7日からのパブリックコメントでいただいたご意見等を参考にして、2月の14日午後2時から総合計画審議会を開催して、そこに最終案を提出し、答申をいただきたいと考えております。
- ・小川委員：2月14日当日も修正を入れることは可能なのか。今日これだけ議論をして、見てみたら入ってなかった、あまり反映されていなかったとなると、一体何だったのかという話になる。
- ・事務局：一部抜けていた、直すべきということがあれば、そこは直させていただきます。その上で、答申書はどうしてもいただきたいと思っています。
- ・小川委員：パブコメをどれだけ反映できるのか、今日の議論がどれだけ集約されたのか、1回議論して、その次が答申かなと思うんです。
- ・事務局：2月14日には答申をいただき、3月の議会に上程するスケジュール感を持っていますので、2月頭か1月後半にスケジュール調整ができるようであれば、お願いしたいと思います。

6. 閉会

- ・腰塚会長：よろしいですか。今日はこれで、閉じたいと思います。長時間ご苦勞様でした。